

日露戦争と福島の人々

日露戦争には強兵と言われた、北陸人が多く召集され激戦の地で戦った、現在、福島の墓地にある、堂々たる墓は、日露戦争の戦死者のものである。

当時は、強健で、しかも長男でないものの中から、徴兵されたので、徴兵逃れに養子縁組が盛んであったと言う。

従って、戦死者は真面目な、国策に順応した家庭の次男、三男であったという記録もある。

日清戦争に勝利した、わが国は、多分に軍国主義に傾斜したが、一方、帝国主義意を嫌う思想も盛んになり『平民新聞』などの記事を見る限り、農民・労働者の考え方も、帝国主義戦争を反対し団結を呼びかけている。



明治三十年頃の、有名な絵かきが描いている、子供たちの、戦争ごっこである日露戦前に日章旗と菊水の幟の戦争は、我々の先輩もこのように戦争の、真似をしたのだろうか。



特に強兵であった、金澤連隊の軍人の死で「死山血河」と言われる、旅順港の攻撃、特に二百三高地の戦いは、歴史に残る激戦であった。

二百三高地攻略後の旅順港を望む将校たち。